

鹿児島市児童クラブの特徴

令和6年度の児童クラブ関連の当初予算は2,079,317千円で、元年度と比較して643,229千円(44.8%)の増となります。以下は主な新規・拡充事業と運営面の特徴です。

《令和6年度当初予算における主な新規・拡充事業》

(新)児童クラブタブレット学習支援事業

- 児童のタブレット端末を活用した学習を支援するため、インターネット環境の強化等を行うもので、九州の県庁所在地では福岡市に次いで2番目に実施します。
- 令和6年7月中旬整備予定
- 予算額：33,104千円



(拡)児童クラブICT化推進事業

- 保護者の利便性向上や職員の業務負担軽減を図るため、入退室管理や保護者連絡等ができるシステムを導入するもので、九州の県庁所在地では本市が初めて全クラブを対象に実施します。
- 令和6年12月運用開始予定
- 予算額：15,861千円

(拡)放課後児童健全育成事業

- 職員の処遇改善を図るため、社会保険を導入します。
- 予算額：30,125千円

※拡充事業の予算額は拡充部分の経費

鹿児島市児童クラブの特徴

ほぼ全ての小学校区に最大7クラブまで設置(クラブ数)

本市の設置クラブ数は 216 クラブ(78 校区)で他都市と比べ一番多く、1 校区あたりのクラブ数でも 2.8 クラブと一番多いです。

延長手続き不要で 18 時まで運営(開所時間)

本市では、延長手続きや追加負担の必要なく、すべての児童が 18 時まで利用可能です。18 時までに保護者がお迎えに来れないことがあらかじめ分かっている場合は、保護者の同意を得て、明るい時間帯での集団帰宅のほか、突発的にお迎えが 18 時を超える場合は、お迎えの時間まで職員が児童をお預かりします。

保護者負担に配慮した料金設定(利用料金)

18 時まで利用する場合、他都市の利用料金の平均は月額 7,000 円程度ですが、本市では 3,500 円です。また、夏休み等開所時間が長い時期は、追加の負担を行っている市がありますが、本市は年間を通じて同一料金であり、利用者の負担軽減に努めています。

※本市は利用料金を低く抑えることで利用者の負担軽減も図りながら、全ての利用者が 18 時まで利用できるような体制を整えています。

子育て世帯に優しい利用条件(受入体制・利用条件)

ほぼ全ての市で保護者の就労日数が週 3 日以上であることを利用条件としていますが、本市では週 1 日以上で、保護者の多様な勤務形態に対応し、仕事と子育ての両立を支援しています。

※九州の県庁所在地及び人口 40 万人以上の中核市 18 市と比較